

## 第2次おおい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	4-①	課名	建設課
------	-----	----	-----

戦略分類	4. 活力生活		
取組の方向	移住・定住の促進に向けたおおいの住まい支援		
戦略事業名	①おおいの空き家は良い空き家！どんどん使って！事業		
予算事業名	空き家等対策事業、空き家診断事業		
令和2年度実績額	12,542,123円	令和3年度予算額(6月補正後)	5,004,000円

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要(実績)	<p><b>【空き家等対策事業】</b>                      空家等に関する対策を総合的、計画的に実施するため、空家等対策の推進に関する条例、同規則および空家等対策協議会規則が令和2年4月1日に施行された。                      条例・空家等対策計画に基づき、空き家の支援事業(診断・解体・活用)を創設し運用を図った。                      啓発事業としては、条例施行と適切な管理に関する啓発リーフレットの配布、空き家支援事業のリーフレットの作成、配布を実施するとともに、空き家無料相談会を3月に開催した。                      空き家情報バンクを運用し、登録物件を町ホームページで紹介した。</p> <p><b>【空き家診断事業】</b>                      空き家の取引の際に、住宅の状態を目視診断する。</p>		
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">支援事業リーフレット</div>

### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	助成件数			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	—		令和2年度末	4件	
	目標値(令和6年度末)	累計15件	⇒			26.7

<b>① 数値目標達成状況</b>	おおむね達成
達成状況の要因分析、今後の方針	
<p><b>【空き家等対策事業】</b>                      年度目標は3件で、KPI達成に向けては順調に推移している。                      空き家支援事業のリーフレットについては町内全戸に配布を行い、その後、事業に関する問合せは寄せられたが、事業を利用し、空き家の除却等を実施する方は少数であった。解体費用等、様々な要因が考えられるが、空き家の問題は所有者や管理者のみならず、近隣住民や地域社会全体に影響を与える課題であることを認識してもらう必要があり、引き続き啓発事業を継続していくとともに、特に老朽度の高い空き家所有者等に対する意識の高揚を図っていく。</p> <p><b>【空き家診断事業】</b>                      空き家所有者から空き家情報バンクの登録相談があり、町の「空家等対策協議会」会員でもある宅地建物取引業士に相談したところ、空き家診断の後、空き家情報バンクの登録を行うことを紹介され、事業の成果及び実績に繋がった。</p>	

<b>② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)</b>	
ノウハウの内容	<p>【空き家等対策事業】 平成30年度に実施した空家実態調査の空き家の内Dランク(倒壊の可能性があるなど、現況のままの利用は困難な物件)の空き家は、町内で17件登録されているが、支援事業(解体)の利用も含め、2件が除却された。</p> <p>【空き家診断事業】 空き家診断を行うには専門の免許を持った建築士が必要となるが、宅地建物取引業士と連携していることが多い。空き家診断を行うことで、住宅の状態、価値が明確になり、空き家を売り買いする際の材料となる。</p>
ノウハウの活用状況・活用方針	<p>【空き家等対策事業】 支援事業の創設により、Dランク空き家の一部解消が図れた。今後も支援事業の活用、啓発を図り、特にDランクの空き家の除却等を進めていく。</p> <p>【空き家診断事業】 空き家売買後のトラブル回避のためにも、物件の希望相談の際に空き家診断を進めていく。</p>
<b>③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映</b>	
<b>④ 事業成果</b>	
<p>【空き家等対策事業】 空き家の支援事業(診断・解体・活用)を創設し運用を図った。また、空き家等支援事業のリーフレットを作成したことで、今後も活用し、老朽空家等の除却等、空き家対策を進めていく。また、空き家情報バンクは所有者と購入者のマッチングの入り口として引き続き運用を行っていく。</p> <p>【空き家診断事業】 空き家診断を行うことにより、空き家を検討する際の判断材料となった。</p>	
<b>内部評価結果</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度目標の3件をクリアしており、KPIの達成に向けて順調</li> <li>・実際の除却に至るには、解体費用等の課題があるため難しい面があるが、空き家は近隣住民や地域社会に影響を与える問題であることを認識してもらうための啓発活動等を通じて、特にDランクの空き家の所有者、管理者に向けて粘りよく理解を求めていくことが重要</li> </ul>	
<b>外部評価の結果</b>	
—	

## 第2次おおい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	4-②	課名	建設課
------	-----	----	-----

戦略分類	4. 活力生活		
取組の方向	移住・定住の促進に向けたおおいの住まい支援		
戦略事業名	②住宅取得等支援事業		
予算事業名	(1)おおいの住まい支援事業 (2)U・Iターン者住まい支援事業 (3)分譲地購入者住まい支援事業 (4)多世帯同居等住まい推進事業		
令和2年度実績額	6,850,000円	令和3年度予算額(6月補正後)	16,800,000円

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要(実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県産材を利用した新築・リフォーム</li> <li>・U・Iターン者が行う新築・リフォーム</li> <li>・分譲地購入者が行う新築</li> <li>・多世帯で同居・近居するために新築・リフォーム</li> </ul> 等を行う経費の一部を助成する。 令和2年度助成件数: 18件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県産材を利用した新築・リフォーム</li> <li>・U・Iターン者が行う新築・リフォーム</li> <li>・分譲地購入者が行う新築</li> <li>・多世帯で同居・近居するために新築・リフォーム</li> </ul> 等を行う経費の一部を助成する。	/

### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	助成件数			現 状		KPI達成率(%)	
	基準値 (平成30年度)	累計65件		⇒	令和2年度末	99件	66.0
	目標値 (令和6年度末)	累計150件					

① 数値目標達成状況	おおむね達成
達成状況の要因分析、今後の方針	
<p>住宅取得は、申請者の費用負担(建築費用や購入費用)が大きく、支援制度についての問い合わせが年度初めと年度末に多数ある。また、目標値を達成するために、令和2年度末に累計で93件程度の実績を積み上げる必要があるが、現状、順調に推移している。</p> <p>R3年度以降、町土地開発公社の石山分譲地や民間事業者が町内数カ所で行っている分譲を行っているため、それらの団体と連携し、事業の活用を進めていく。</p>	

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)	
ノウハウの内容	コロナ禍の影響もあり、町のHP閲覧からの問い合わせが多数を占めている。町ホームページ上で、全メニューを一覧にしたページを作成し、使える制度が一目で確認できるように公開している。
ノウハウの活用状況・活用方針	支援制度の問い合わせ対応に、双方でHP画面を確認しながら行える。民間住宅事業者も、HPからの問い合わせが多いため、活用できている。
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
—	
④ 事業成果	
<p>おい町の住宅支援制度を広く周知することができ、おい町へ定住の検討材料とすることができた。</p>	
内部評価結果	
<p>・助成件数は概ね目標どおり推移しており、KPIの達成に向けて順調。今後も、HP等を活用して、町内外の方により分かりやすく情報を提供していきことが重要</p>	
外部評価の結果	
—	

## 第2次おおい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	4-③	課名	建設課
------	-----	----	-----

戦略分類	4. 活力生活		
取組の方向	移住・定住の促進に向けたおおいの住まい支援		
戦略事業名	③宅地造成事業		
予算事業名	住宅用地造成事業		

令和2年度実績額	1,310,000円	令和3年度予算額(6月補正後)	14,990,000円
----------	------------	-----------------	-------------

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度	
事業の概要(実績)	<p>《町事業》 佐分利地区において新たに宅地分譲地の整備を行い、定住化の促進を図ることとした。</p> <p>【事業内容】 ・宅地分譲地造成工事の実施 4区画 A=1,483.89m<sup>2</sup>(道路等含む) ※次年度へ繰越し工事等実施</p> <p>《おおい町土地開発公社事業》 おおい町土地開発公社において、各分譲地の販売促進を実施。 ●南浦宅地(住宅地) ●三重宅地(住宅地) 〔その他分譲地〕・成和宅地(商業地) ・小倉畑宅地(住宅地) ・三重宅地【星美台】(住宅地)</p> <p>R2年度分譲実績: 4件売却(三重) (買戻し4件)</p>	<p>《町事業》 R2年度からの繰越し工事完成 (宅地分譲地造成工事)</p> <p>《おおい町土地開発公社事業》 おおい町土地開発公社において、各分譲地の販売促進を行っている。 ●南浦宅地(住宅地) ●三重宅地(住宅地) ●石山住宅(住宅地) 〔その他分譲地〕・成和宅地(商業地) ・小倉畑宅地(住宅地) ・三重宅地【星美台】(住宅地)</p>	/	
	<p>《石山分譲地整備 4区画》 ① 270.19m<sup>2</sup> ② 269.89m<sup>2</sup> ③ 271.46m<sup>2</sup> ④ 268.27m<sup>2</sup></p> <p>《各分譲地の状況》 南浦分譲地 全区画数20区画 7区画売却済 三重分譲地 全区画数18区画 10区画売却済</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">石山地区宅地分譲地</div> 		

### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	売却数			現 状	KPI達成率(%)	
	基準値 (平成30年度)	累計17件	⇒	令和2年度末	17件	54.8
	目標値 (令和6年度末)	累計31件				

① 数値目標達成状況 達成できなかった

達成状況の要因分析、今後の方針

三重分譲地で8区画、南浦分譲地で13区画の売れ残りがある。立地条件等があまりよくないのが原因と考えるが、今後も継続しホームページやチラシ等で分譲地の広報を行うとともに適切な維持管理を図り、全区画完売を目指したい。

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)

<p>ノウハウの内容</p>	<p>当初想定したより需要が伸びない。</p>
<p>ノウハウの活用状況・活用方針</p>	<p>分譲地売却に向け、町広報誌やホームページ等の活用により潜在需要の掘り起こしに努めるとともに、県外等で実施される移住・定住イベントでU・Iターン希望者をターゲットとした広報活動を行うなど、様々なPR方法を検討し実施していくこととする。</p>

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

<p> </p>
----------

④ 事業成果

<p>若い世帯を中心に一定の成果があったと考える。移住・定住の促進とともに、町有地の有効利用が図られた。</p>
--

内部評価結果

<p>・実績が目標値を下回っているが、全区画の完売に向けて、U・Iターン希望者などをターゲットに積極的なPRを行っていくことが重要</p>
---

外部評価の結果

<p>—</p>
----------

## 第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	4-④	課名	すこやか健康課
------	-----	----	---------

戦略分類	4. 活力生活		
取組の方向	積極的な活動展開による「若さ」いきいき生活の実現		
戦略事業名	④健康づくり事業		
予算事業名	健康プログラム事業		

令和2年度実績額	3,578,133円	令和3年度予算額(6月補正後)	5,005,000円
----------	------------	-----------------	------------

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要(実績)	<p>10月より2次生(50名)が加わり、1次生(令和元年10月～)と合わせて100名が事業に取り組んだ。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、動画を活用したセミナーを行った。参加者は、各自の携帯やパソコンで運動や食生活に関する動画を閲覧した。</p> <p>また、バーチャルウォーキングラリーやからだ測定会を開催した。</p>	<p>令和3年9月末で、1次生が2年間のプログラムを終了するため、卒業セミナーを開催し、2年間の取り組みの振り返りや、表彰等を行う。</p> <p>また、8月より新たに50名の3次生を募集し、10月から事業を開始する。</p> <p>引き続き、バーチャルウォーキングラリーや、サポートセミナーを開催し、参加者の運動習慣の継続に繋げる。</p> <p>また、新たに、自分の取り組み状況が把握でき、取組に応じたアドバイスが記載された「アドバイスシート」を毎月送付する。</p>	/



### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	健康寿命			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	男性79.15歳、女性84.66歳		令和2年度末	男性 79.56歳 女性 84.25歳	男性 100.5 女性 99.0
	目標値(令和6年度末)	男性79.20歳、女85.10歳	⇒			

#### ① 数値目標達成状況 おおむね達成

<p>達成状況の要因分析、今後の方針</p> <p>標準化医療費において、本町は県平均に比べ筋骨格系の疾患の比率が男女ともに高くなっている。こうした筋骨格系疾患の予防には、健康なうちに日常的に適度な運動を継続することが重要であり、介護費や医療費の削減や健康寿命の延伸に大いに有効であると考えられる。</p> <p>ウォーキングは、年齢性別を問わず運動習慣がない方でも気軽に取り組み、筋力低下予防、生活習慣病予防、脳の活性化等メリットが大きい。今後も引き続きウォーキングによる健康づくりの支援を行うとともに、事業参加者に限らず広く町民への情報発信を行いたい。</p>	
--	--

② 事業に取組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)	
ノウハウの内容	コロナ禍の令和2年度に事業がスタートした2次生は、1次生と比較すると、歩数の増加が少なかった。コロナ禍で集合型のセミナーや運動教室など介入の機会が少なかったことが要因の一つと考えられる。
ノウハウの活用状況・活用方針	2年間の取り組み期間中、参加者のモチベーションが低下しないよう、悪天候が続く冬場に自宅で行える運動に関する情報提供や、専用サイトへのログイン状況、データ送信状況、測定結果等を確認し、個別のアプローチが必要であると考ええる。

### ③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

#### ④ 事業成果

令和2年度末に実施したアンケート結果より、参加直後と比較して、国推奨歩数(8000歩)の達成者割合が7.4%増加(事前42.6%⇒事後50.0%)し、プログラム参加により、一定の成果がうかがえた。また、日常生活の中で1時間以上身体活動をしている人の割合が14.6%上昇(事前23.6%⇒事後38.2%)したことから、定期的な運動の習慣化につながっている。

#### 内部評価結果

(健康づくり事業共通)  
 ・KPIの達成に向けて順調であり、アンケート結果等からも各事業の取組が、町民の運動習慣定着につながっていると評価できる  
 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で外出の機会が減少していると懸念され、運動の習慣化を一層進めていくことが重要

#### 外部評価の結果

—

## 第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	4-④	課名	すこやか健康課
------	-----	----	---------

戦略分類	4. 活力生活		
取組の方向	積極的な活動展開による「若さ」いきいき生活の実現		
戦略事業名	④健康づくり事業		
予算事業名	健康づくり推進事業[国保特会](健康プログラム事業)		
令和2年度実績額	133,000円	令和3年度予算額(6月補正後)	770,000円

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要(実績)	<p>10月より2次生(50名)が加わり、1次生(令和元年10月～)と合わせて100名が事業に取り組んだ。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、動画を活用したセミナーを行った。参加者は、各自の携帯やパソコンで運動や食生活に関する動画を閲覧した。</p> <p>また、バーチャルウォーキングラリーやからだ測定会を開催した。</p>	<p>令和3年9月末で、1次生が2年間のプログラムを終了するため、卒業セミナーを開催し、2年間の取り組みの振り返りや、表彰等を行う。</p> <p>また、8月より新たに50名の3次生を募集し、10月から事業を開始する。</p> <p>引き続き、バーチャルウォーキングラリーや、サポートセミナーを開催し、参加者の運動習慣の継続に繋げる。</p> <p>また、新たに、自分の取り組み状況が把握でき、取組に応じたアドバイスが記載された「アドバイスシート」を毎月送付する。</p>	/



### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	健康寿命			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	男性79.15歳、女性84.66歳		令和2年度末	男性 79.56歳 女性 84.25歳	男性 100.5 女性 99.0
	目標値(令和6年度末)	男性79.20歳、女85.10歳	⇒			

#### ① 数値目標達成状況 おおむね達成

達成状況の要因分析、今後の方針

標準化医療費において、本町は県平均に比べ筋骨格系の疾患の比率が男女ともに高くなっている。こうした筋骨格系疾患の予防には、健康なうちに日常的に適度な運動を継続することが重要であり、介護費や医療費の削減や健康寿命の延伸に大いに有効であると考えられる。

ウォーキングは、年齢性別を問わず運動習慣がない方でも気軽に取り組み、筋力低下予防、生活習慣病予防、脳の活性化等メリットが大きい。今後も引き続きウォーキングによる健康づくりの支援を行うとともに、事業参加者に限らず広く町民への情報発信を行いたい。

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)	
ノウハウの内容	コロナ禍の令和2年度に事業がスタートした2次生は、1次生と比較すると、歩数の増加が少なかった。コロナ禍で集合型のセミナーや運動教室など介入の機会が少なかったことが要因の一つと考えられる。
ノウハウの活用状況・活用方針	2年間の取り組み期間中、参加者のモチベーションが低下しないよう、悪天候が続く冬場に自宅でできる運動に関する情報提供や、専用サイトへのログイン状況、データ送信状況、測定結果等を確認し、個別のアプローチが必要であると考ええる。

### ③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

#### ④ 事業成果

令和2年度末に実施したアンケート結果より、参加直後と比較して、国推奨歩数(8000歩)の達成者割合が7.4%増加(事前42.6%⇒事後50.0%)し、プログラム参加により、一定の成果がうかがえた。また、日常生活の中で1時間以上身体活動をしている人の割合が14.6%上昇(事前23.6%⇒事後38.2%)したことから、定期的な運動の習慣化につながっている。

#### 内部評価結果

(健康づくり事業共通)  
 ・KPIの達成に向けて順調であり、アンケート結果等からも各事業の取組が、町民の運動習慣定着につながっていると評価できる  
 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で外出の機会が減少していると懸念され、運動の習慣化を一層進めていくことが重要

#### 外部評価の結果

—

## 第2次おおい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	4-④	課名	すこやか健康課
------	-----	----	---------

戦略分類	4. 活力生活
取組の方向	積極的な活動展開による「若さ」いきいき生活の実現
戦略事業名	④健康づくり事業
予算事業名	健康増進事業(ノルディックウォーキング・体力づくり教室)

令和2年度実績額	19,200円	令和3年度予算額(6月補正後)	212,000円
----------	---------	-----------------	----------

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要(実績)	<p>「ノルディックウォーキング教室」は、年3回の実施を予定していたが、うち2回はコロナの影響により中止した。3月に実施した教室では、講師より歩き方の指導を受けたあと、「健康ロードいきいきコース」を通る約3kmを歩いた。</p> <p>また、代替事業として新たに開催した「足の健康教室」では、足に関する測定(足裏バランス、足指力)と、正しいウォーキングフォームを学ぶ教室を開催した。</p> <p>自宅でできるストレッチや筋トレを学ぶ教室「OOI(おおい)★100日チャレンジ」は、3回シリーズで大飯、名田庄で開催した。</p>	<p>引き続き、運動習慣の定着を目的として、「ノルディックウォーキング教室」「足の健康教室」「OOI★100日チャレンジ教室」の実施を予定。</p> <p>新たにノルディックウォーキングのポールの貸し出しを行い、教室以外でも体験・実践を可能にする。</p> <p>[予定]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノルディックウォーキング教室 2回</li> <li>・足の健康教室 1回</li> <li>・OOI★100日チャレンジ 大飯地域 名田庄地域 各3回</li> </ul>	/



### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	健康寿命		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	男性79.15歳、女性84.66歳		令和2年度末	男性 79.56歳 女性 84.25歳	男性 100.5 女性 99.0
	目標値(令和6年度末)	男性79.20歳、女85.10歳				

#### ① 数値目標達成状況 おおむね達成

達成状況の要因分析、今後の方針

標準化医療費において、本町は県平均に比べ筋骨格系の疾患の比率が男女とも高くなっている。こうした筋骨格系疾患の予防には、健康なうちに日常的に適度な運動を継続することが重要であり、介護費や医療費の削減や健康寿命の延伸に大いに有効であると考えられる。

ノルディックウォーキングは、全身の筋肉を刺激する全身運動であり、またポールを使用することにより膝や腰の負担を軽減できるため、安全性が高い。また柔軟性や筋力を維持・向上させることは生活習慣病予防、フレイル予防に非常に重要であることから、今後も引き続き実施する。

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)	
ノウハウの内容	ウォーキングやストレッチ、筋トレなどの運動による効果はすぐには現れず、継続して実践することが重要である。教室の内容やポイントを振り返り、実践・継続できるよう支援が必要である。
ノウハウの活用状況・活用方針	教室実施日以外でも、気軽にノルディックウォーキングが体験・実践できるよう、令和3年度より町民や町内の団体に対してポールを貸し出しを開始する。 また、OOI★100日チャレンジでは、講師から多くの種類のストレッチ・筋トレを学ぶため、教室終了後も自宅で実践できるよう写真付きの解説を配布した。

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

④ 事業成果
<p>ノルディックウォーキング教室の参加者は、ポールを使うことで普通のウォーキングよりも歩幅が大きくなることや、上半身の筋肉も使う全身運動が行えることなどを実感されていた。膝や腰の負担が少なく、バランスを崩すことなくウォーキングができると好評であった。一部の参加者は、教室終了後にポールを購入し、継続されている。</p> <p>免疫力アップのための運動教室では、教室の内容を振り返れるよう、ストレッチやトレーニングについての写真付きの解説を作成・配布し、自宅での実践の継続に繋げた。</p>

内部評価結果
<p>(健康づくり事業共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KPIの達成に向けて順調であり、アンケート結果等からも各事業の取組が、町民の運動習慣定着につながっていると評価できる</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大の影響で外出の機会が減少していると懸念され、運動の習慣化を一層進めていくことが重要</li> </ul>

外部評価の結果
—

## 第2次おおい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	4-④	課名	すこやか健康課
------	-----	----	---------

戦略分類	4. 活力生活		
取組の方向	積極的な活動展開による「若さ」いきいき生活の実現		
戦略事業名	④健康づくり事業		
予算事業名	保健福祉支援センター運営事業 国保特会(ノルディックウォーキング・体力づくり教室)		
令和2年度実績額	133,000円	令和3年度予算額(6月補正後)	190,000円

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要(実績)	<p>「ノルディックウォーキング教室」は、年3回の実施を予定していたが、うち2回はコロナの影響により中止した。3月に実施した教室では、講師より歩き方の指導を受けたあと、「健康ロードいきいきコース」を通る約3kmを歩いた。</p> <p>また、代替事業として新たに開催した「足の健康教室」では、足に関する測定(足裏バランス、足指力)と、正しいウォーキングフォームを学ぶ教室を開催した。</p> <p>自宅でできるストレッチや筋トレを学ぶ教室「OOI(おおい)★100日チャレンジ」は、3回シリーズで大飯、名田庄で開催した。</p>	<p>引き続き、運動習慣の定着を目的として、「ノルディックウォーキング教室」「足の健康教室」「OOI★100日チャレンジ教室」の実施を予定。</p> <p>新たにノルディックウォーキングのポールの貸し出しを行い、教室以外でも体験・実践を可能にする。</p> <p>[予定]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノルディックウォーキング教室 2回</li> <li>・足の健康教室 1回</li> <li>・OOI★100日チャレンジ 大飯地域 名田庄地域 各3回</li> </ul>	/



### 評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	健康寿命			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	男性79.15歳、女性84.66歳		令和2年度末	男性 79.56歳 女性 84.25歳	男性 100.5 女性 99.0
	目標値(令和6年度末)	男性79.20歳、女85.10歳	⇒			

#### ① 数値目標達成状況 おおむね達成

達成状況の要因分析、今後の方針

標準化医療費において、本町は県平均に比べ筋骨格系の疾患の比率が男女とも高くなっている。こうした筋骨格系疾患の予防には、健康なうちに日常的に適度な運動を継続することが重要であり、介護費や医療費の削減や健康寿命の延伸に大いに有効であると考えられる。

ノルディックウォーキングは、全身の筋肉を刺激する全身運動であり、またポールを使用することにより膝や腰の負担を軽減できるため、安全性が高い。また柔軟性や筋力を維持・向上させることは生活習慣病予防、フレイル予防に非常に重要であることから、今後も引き続き実施する。

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ（成果又は反省から得られた情報や知識）

<p>ノウハウの内容</p>	<p>ウォーキングやストレッチ、筋トレなどの運動による効果はすぐには現れず、継続して実践することが重要である。教室の内容やポイントを振り返り、実践・継続できるよう支援が必要である。</p>
<p>ノウハウの活用状況・活用方針</p>	<p>教室実施日以外でも、気軽にノルディックウォーキングが体験・実践できるよう、令和3年度より町民や町内の団体に対してポールの貸し出しを開始する。 また、OOI★100日チャレンジでは、講師から多くの種類のストレッチ・筋トレを学ぶため、教室終了後も自宅で実践できるよう写真付きの解説を配布した。</p>

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

<p>（この欄は空白です）</p>
-------------------

④ 事業成果

<p>ノルディックウォーキング教室の参加者は、ポールを使うことで普通のウォーキングよりも歩幅が大きくなることや、上半身の筋肉も使う全身運動が行えることなどを実感されていた。膝や腰の負担が少なく、バランスを崩すことなくウォーキングができると好評であった。一部の参加者は、教室終了後にポールを購入し、継続されている。 免疫力アップのための運動教室では、教室の内容を振り返れるよう、ストレッチやトレーニングについての写真付きの解説を作成・配布し、自宅での実践の継続に繋げた。</p>
--

内部評価結果

- （健康づくり事業共通）
- ・KPIの達成に向けて順調であり、アンケート結果等からも各事業の取組が、町民の運動習慣定着につながっていると評価できる
  - ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で外出の機会が減少していると懸念され、運動の習慣化を一層進めていくことが重要

外部評価の結果

<p>—</p>
----------

## 第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	4-⑤	課名	社会教育課
------	-----	----	-------

戦略分類	4. 活力生活		
取組の方向	積極的な活動展開による「若さ」いきいき生活の実現		
戦略事業名	⑤生涯学習推進事業		
予算事業名	本郷公民館活動事業、佐分利公民館活動事業、大島公民館活動事業、名田庄公民館活動事業 本郷公民館生涯学習推進事業、佐分利公民館生涯学習推進事業、大島公民館生涯学習推進事業、名田庄公民館生涯学習事業		
令和2年度実績額	4,184,701円	令和3年度予算額(6月補正後)	8,291,000円

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要(実績)	<p>この事業は、地域における生涯学習の充実や地域課題の解決が求められている公民館を主体にして、生涯にわたる学習の場の提供、および地域づくりの拠点施設として住民活動を支援する。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、4月から6月中旬までの各教室や大規模な事業等は開催出来なかったが、それ以降は公民館ごとに住民の学習の場の提供や、生涯学習推進委員と連携し地域の特性を生かした事業を展開していった。</p>	<p>令和3年度においては、新しい生活様式を踏まえ、新型コロナウイルス感染防止対策を考慮しながら、SNSでの情報発信や住民の学習の場の提供を繋げるオンライン講座等の教室の開催を取り入れる。</p> <p>各公民館ごとの生涯学習推進委員との連携により、地区住民の求める学習の場をつくり、地域の繋がりが深まるような事業を行う。</p>	
	夏休み親子物づくり		
歴史講座			

### 評価(Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	教室・講座参加者数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	年間延べ6,914人		令和2年度末	3,935人	53.9
	目標値 (令和6年度末)	年間延べ7,300人				

① 数値目標達成状況	達成できなかった
達成状況の要因分析、今後の方針	
<p>新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、令和2年3月から6月中旬まで公民館教室は開催できず、踊り保存会主催の大会や、文化祭などの大きな行事が中止となり参加者数が大きく減少したが、その後は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に合わせた教室の内容変更や人数制限など各種教室、行事の開催にあたって工夫しながら実施していた。</p> <p>今後は、まだまだ終息の見込みが立たない新型コロナウイルス感染症の状況にあわせ感染対策を徹底しながら、新しい生活様式や様々な開催方法を選択し、事業実施を進める。</p>	

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)

<p>ノウハウの内容</p>	<p>新型コロナ感染防止の観点から、今まで通りの方法では各種教室、行事を行うことが出来なかったため、新たな開催方法としてオンラインでの教室を開催した。また、公民館へ来ることが出来ない期間での情報発信の大切さを痛感し、ユーチューブでの動画配信等に取り組んだ。</p>
<p>ノウハウの活用状況・活用方針</p>	<p>現在、各公民館、図書館では、従来の教室開催に伴う告知チラシに加えて、フェイスブック、インスタグラムを開設して、行事・教室等の告知や活動状況を周知し、住民が公民館を利用しやすい環境づくりを行っている。</p>

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

<p> </p>
----------

④ 事業成果

令和2年度については、令和元年度から始まった新型コロナウイルス感染拡大状況に併せ、年度当初の4月から6月中旬まで緊急事態宣言に伴う学校閉鎖や公共施設の開放制限を受け、公民館教室や行事の開催の可否、事業内容の変更について方針を変えていく必要があった。そして従来の開催方針では、感染拡大の中、開催出来ることが少なく公民館の機能を失いつつあったが、この非常事態だからこそ公民館として何が出来るのかを地区公民館4館で協力して、住民に発信していく方法を検討した。

一つひとつの事業についてこれなら出来る、これはどうかとみんなで考えながら進めた結果、今まで選択していなかったオンライン講座の導入、Youtubeでの動画配信等職員みんなで勉強しながら進めていくことが出来た。また、通常での教室等の開催については、人数制限や内容変更等丁寧に検討し徹底した感染対策の上で実施することを実践していくことが出来た。

内部評価結果

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、4月から6月中旬まで各教室や大きな行事等は開催出来なかったため、実績が目標値を下回っているが、6月中旬以降、人数制限など感染症対策を施した上で教室を実施したり、オンライン講座やYoutubeでの動画配信を導入するなど、新しい活動形態を模索し社会情勢に合わせる形で事業を展開していくことができています。

外部評価の結果

<p>—</p>
----------

## 第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	4-⑥	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	4. 活力生活		
取組の方向	情報通信基盤の整備充実		
戦略事業名	⑥Wi-Fi環境整備事業		
予算事業名	Wi-Fi環境整備事業		

令和2年度実績額	2,145,000円	令和3年度予算額(6月補正後)	11,500,000円
----------	------------	-----------------	-------------

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要(実績)	公共施設におけるWi-Fi環境整備 (4施設) <ul style="list-style-type: none"> <li>・若州一滴文庫</li> <li>・フィットネスセンターアクアマリン</li> <li>・暦会館</li> <li>・若狭本郷駅</li> </ul>	公共施設におけるWi-Fi環境整備 (4施設) <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合運動公園(野球場)</li> <li>・総合運動公園(球技場)</li> <li>・赤礁崎オートキャンプ場</li> <li>・頭巾山青少年旅行村</li> <li>・八ヶ峰家族旅行村</li> </ul>	/



### 評価(Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	整備箇所数			現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	累計1箇所			令和2年度末	
	目標値 (令和6年度末)	累計25箇所	⇒			72%

① 数値目標達成状況	おおむね達成
達成状況の要因分析、今後の方針	
WiFi環境整備計画に基づき、順次、観光施設・道の駅等のWiFi環境整備を進めていく。	

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)

ノウハウの  
内容

ノウハウの  
活用状況・  
活用方針

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

④ 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)

公共施設にWi-Fi設備(無線アクセスポイント等)を設置しインターネット利用環境を整備することで、災害発生時に携帯電話事業者が整備しているインフラが被害を受け、スマートフォン等が利用がしづらい状況下でも、住民および滞在者等が情報収集できる環境を確保できる。  
また、平常時においては、住民等に当該Wi-Fiを広く認知してもらい、情報収集手段として活用してもらおう。

内部評価結果

・災害時の避難所となる公共施設等へのWi-Fi整備を計画的に進めており、KPIの達成に向けて順調

外部評価の結果

—